

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和5年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度（評価）
A：十分達成できている
B：おおむね達成できている
C：やや不十分である
D：不十分である

学校名	鳥栖市立鳥栖西中学校
1 前年度 評価結果の概要	・学校教育目標「西中一心一夢の根っこを育てる」のもと、①志を高める教育の推進 ②確かな学力を育む教育の推進 ③豊かな心・健やかな体を育む教育の推進 を重点目標として全職員で取り組み、重点取組内容に対しては概ね達成できた。 ・①については、学校行事や様々な取組を通して、自らの夢や目標の実現に向け努力する気持ちを育てる教育活動を推進することができた。来年度は更に生徒主体の学校行事等の実施を通して、魅力ある学校づくりと生徒の居場所・絆づくりに向けた取組を行っている。 ・②については、学力向上推進地域指定事業を活用しながら、テーマやめあてをもつて公開授業や授業研究会を行うことができた。そのことで、教職員のスキルが向上し、佐賀県学力・学習状況調査では2年生において向上が見られた。このことを来年度の校内研究へつなげ、深い学びの実現に向けた取組を推進していく。 ・③については、いじめ防止等について、常に全教職員と情報共有を図り、管理職を含めた生徒指導体制の充実を図った。特に、今年度から不登校やいじめの未然防止に向けた取組として、全校で構成のグループエンカウンターに組み、生徒同士の人間関係づくりやコミュニケーション能力の向上を図った。来年度も継続し、生徒が夢や志をもち、自らの可能性に挑戦する為に必要となる自己肯定感と自己有用感の育成を目指した取組の推進を図っていく。
2 学校教育目標	西中一心～夢の根っこを育てる～ ・それぞれの生徒の「夢」を実現させるための「根っこ」を育てる教育を、全校一丸となって推進する。 ・それぞれの生徒が、自分と他人を大切にし、お互いに認め合い・高め合って、共に成長できる学校をつくる。

3 本年度の重点目標	① 志を高める教育の推進 ② 確かな学力を育む教育の推進 ③ 豊かな心・健やかな体を育む教育の推進
------------	---

4 重点取組内容・成果指標	中間評価	5 最終評価
---------------	------	--------

(1)共通評価項目									
重点取組				中間評価		最終評価		学校関係者評価	
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
●学力の向上	○全職員による共通理解と共通実践・学習内容の定着に向けた分かりやすい授業の実践	○「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいると思う」に肯定的な回答をする生徒の割合80%以上とする。 ○授業において自ら選択して取り組む学習の実践や「授業の最後に、『ふりかえり』の活動を行っていると思う」に肯定的な回答をする生徒の割合80%以上とする。 ○調べ学習において、課題や目的に応じ、タブレット端末を用いて、情報を主体的に収集・整理・分析する場面を設定した授業実践に取り組む割合を80%以上とする。	・「めあて」や「ながれ」の提示とともに効果的な「ふりかえり」場面の設定がなされた授業実践に取り組む。また、生徒が主体的に選択させる場面を設定した授業実践に取り組む。 ・GIGAスクール構想実現によるタブレット端末の利活用を通して「個別最適な学び」と「協働的な学び」を取り入れた授業実践に取り組む。	B	・校内研究の取組として、多くの職員が共通認識をもって授業実践を行っている。 ・タブレット型端末の研修会を複数回開催し、授業に取り入れる場面が増えつつあるが、今後も更に増やしていく。	A	・9割程度の授業において、単元の終わりに学習の振り返りを実施した。また、「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいると思う」に肯定的な回答をする生徒の割合が8割程度という結果を得た。 ・調べ学習において、課題や目的に応じ、タブレット端末を用いて、情報を主体的に収集・整理・分析する場面を設定した授業実践に取り組む割合を8割を超えた。	A	・おおむね妥当である。学力向上において、主体的に課題に取り組む姿勢は、必須である。また、調べ学習のタブレット活用の成果が出ていることはよい。今後もさらに授業実践と研究を推進し、自分から取り組める学習環境を提供してほしい。
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○「学校行事や体験活動、奉仕活動を通して、自分が成長している」と回答する生徒を90%以上にする。 ○「差別やいじめは許さない」という意識を持ち、お互いのよさを認め合い、思いやりの心をもって行動している」と答える生徒を95%以上にする。	・道徳教育や体験活動、人権・同和教育を核とした学校教育全体での心の教育の充実に取り組む。 ・「いじめ・いのちを考える日」の取組を通して、命と人権を守ることの大切さを考えさせる。	B	・校内研究の一環として部会を設置し、毎月の「いじめ・いのちを考える日」の取組について、今後も様々な視点から指導を充実させていく。	A	・「学校行事や体験活動、奉仕活動を通して、自分が成長している」と回答する生徒が8割を超えた。 ・差別やいじめは許さないという意識を持ち、お互いのよさを認め合い、思いやりの心をもって行動している」と答える生徒が9割を超え	A	・おおむね妥当である。今後もあらゆる機会を通して、生徒の心の成長につながる取組を継続してほしい。また、軽率な言動については、継続して指導を行ってほしい。
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○「いじめ防止等（いじめの防止等のための取組、事案対処等）」について、関係職員や担任・保護者と連携した組織的対応ができている」と回答した教員を100%にする。	・いじめの未然防止・早期発見・早期対応・再発防止を柱として、組織的に対応できるよう生徒指導体制や教育相談体制の整備及び家庭や関係機関との連携など生徒一人一人に寄り添った支援の充実に取り組む。	A	・生活・いじめアンケートや、生徒観察から得た情報を、学年部会や生徒指導委員会などでできるだけ早期に共有し、組織的に対応することはできている。	A	・「いじめ防止等（いじめの防止等のための取組、事案対処等）」について、関係職員や担任・保護者と連携した組織的対応ができている」と回答した教員が8割を超えた。	A	・おおむね妥当である。今後、保護者に対していじめ防止や人権・いのちの教育の取組をもっと知らせ、学校と家庭の意識のズレを少なくしていく必要がある。
	●◎児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動	●「先生はあなたの良いところを認めてくれていると思う」と回答した児童生徒を85%以上にする。 ◎「自らの夢や希望をもっている」について肯定的な回答をした生徒を85%以上にする。	・教科の学習、学校行事等を通して、自らの夢や目標について考えさせる場面や時間を設定する。 ・キャリア・パスポートを通して自らの学習状況やキャリア形成を見通したり振り返ったりしながら、自身の変容や成長を自己評価できるようにする。	A	・学校行事や体験学習をほぼ全面实施することができた中で、自らの夢や目標について考えさせられている。	A	・「先生はあなたのなやみや相談事にきちんと対応していると思う」と回答した児童生徒が8割程度であった。 ・9割程度の生徒が「自らの夢や希望をもっている」という項目について肯定的な回答をし	A	・おおむね妥当である。今後も生徒一人一人に寄り添った支援を行ってほしい。今後も様々な場面で応援していきたい。
●健康・体づくり	●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	●「健康に良い食事をしている」と考える生徒を98%以上にする。	・安全・安心な学校給食の実施や学校の教育活動全体を通した食育に取り組む。 ・「日給食たより」を用いて昼食時に食に関する放送を行い、健康と食事について考えさせる。	B	・関連する教科等において、食に関する指導の視点を位置づけた指導に努めている。 ・今後、給食委員の活動を通して残菜を減らす取組を進めていきたい。	B	・「健康に良い食事をしている」と答えた生徒が8割を超えた。 ・生活習慣調査から毎日朝食を食べる(81.2%)食べる日の方が多い(13.2%)をあわせると94.4%で目標値に近づいている。 ・給食委員会の活動や放送での啓蒙は行われているが、残菜を減らす具体的な取り組みには至っていない。	B	・おおむね妥当である。生徒には引き続き啓蒙活動を行う必要がある。その中で具体的かつ科学的見地に立った説得力のある資料で指導を行ってほしい。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・校務分掌の確実な遂行に取り組み、「チーム西中」の意識のもと、計画的・組織的な業務遂行に努めようとする教職員の意識向上を図る。 ・定時退勤日の確実な実施に取り組む。また、平日でも目標とする退勤時間を設定し、教職員へ周知することで、退勤時間遵守に向けた意識化を図る。	B	・校務の分担、省力化、効率化をすすめている。 ・仕事量が多く完全にはできていないが、退勤時間の設定と時間を守る取り組みを継続していく。	A	・業務に対する職員の意識が、「チーム西中」として、全体で取り組むものに変化してきたため、計画的・組織的な業務の遂行が格段に増えた。年度当初の繁忙期以外は、教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を下回った。	A	・おおむね妥当である。ただ、教員にかかる負担を考えると、最低でも教員の定数を満たす措置が必要である。人員の増員とさらなる業務の軽減を市に働きかけたい。

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目									
重点取組				中間評価		最終評価		学校関係者評価	
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
○小中一貫教育の充実	○教科「日本語」の実践充実	○保護者・地域等に対する教科「日本語」の授業公開学級を70%にする。 ○保護者等に対する教科「日本語」に係る情報を年間3回以上公開した学級を80%以上にする。	・教科「日本語」の取組について、学期に1回程度、学校・学年たより等で保護者や地域に知らせる。 ・保護者・地域に対して教科「日本語」の授業を公開する。 ・学校・学年全体で授業に関わる体制を構築し、魅力的な授業づくりを行う。	A	・学年全体で教科「日本語」に取り組み、ゲストティーチャー等も活用しながら魅力的な授業づくりに努めている。 ・学校・学年たより等で、活動の様子を保護者や地域に知らせている。	A	・学年全体で教科「日本語」に取り組み、ゲストティーチャー等も活用しながら魅力的な授業づくりに努めている。 ・学校・学年たよりで、活動の様子を保護者や地域に知らせている。	A	・おおむね妥当である。
○開かれた学校作り	○地域とともにある学校づくりの推進	○地域の人的・物的資源を生かした授業や講演会を1回以上設定する。	・コミュニティ・スクールの運営を通し、各種団体、地域等の協力を図り、教育活動の活性化を図る。 ・様々な機会を通して、学校の様子や行事等の情報の発信を行う。	A	・学校運営協議会を定期的に開き、職業人に学ぶ講座では、多くの地域の方々と交流することができた。 ・学校だよりを定期的にHPにアップし、民生委員会や区長会、交対協などでも学校の様子を知らせている。	A	・学校運営協議会を定期的に開き、職業人に学ぶ講座では、多くの地域の方々と交流することができた。 ・学校だよりを定期的にHPにアップし、民生委員会や区長会、交対協などでも学校の様子を知らせている。	A	・おおむね妥当である。来年度も地域や保護者と連携しながら、様々な行事や取組を行ってほしい。応援していきたい。
○多様なニーズに対応した教育の推進	○特別支援教育に関する理解の啓発と教師の専門性と意識の向上	○特別支援教育コーディネーターと、関係職員を中心として特別支援委員会を週1回開催する。 ○特別支援学級の担任同士で、スキルアップのための研修を行う。	・委員会を週1回定期的に開催し、生徒の情報交換、支援計画や指導計画の作成や、具体的な対応に関する協議を行う。 ・特別支援学級の担任を中心に、支援を必要とする生徒が社会的・自立的・職業的な自立に向け、自らの生き方に付いて考え、希望する進路を実現できるような進路指導及びキャリア教育の充実に取り組む。	A	・特別支援委員会と全職員参加の連絡会で情報交換した上で支援を行うことができている。 ・全職員で特別支援教育にかかる研修を行い、特別支援教育の理解を深め、教師の専門性の向上につなげている。	A	・特別支援委員会と全職員参加の連絡会で情報交換した上で支援を行うことができている。 ・全職員で特別支援教育にかかる研修を行い、特別支援教育の理解を深め、教師の専門性の向上につなげている。	A	・おおむね妥当である。

●・・・県共通 ○・・・学校独自 ◎・・・志を高める教育

5 総合評価・次年度への展望	・学校教育目標「西中一心～夢の根っこを育てる～」のもと、重点目標①志を高める教育の推進 ②確かな学力を育む教育の推進 ③豊かな心・健やかな体を育む教育の推進の達成に向けて職員がチームとなって教育活動を行い、おおむね成果を上げることができた。 重点目標①:学校行事や体験学習等において、自らの夢や目標について考えさせることができた。今後は、授業・行事等のあらゆる教育活動において、生徒が自己決定し、能動的に取り組むよう仕組みでいくことで、自己肯定感や自己有用感を育て、自らの可能性を実感する機会を与えることを目指す。 重点目標②:「めあて」「ながれ」の提示や、単元末の「ふりかえり」場面の設定について共通実践を行い、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいくことができたことと実感している生徒が増えた。今後も教師の指導法改善を進めながら、生徒の主体的・共働的な学びを実現する授業実践を進める。 重点目標③:給食委員会が中心となって給食の残菜を減らす取り組みを行ったが、改善が難しかった。今後も、健康につながる食習慣について考え、実践させる活動を模索していくとともに、「早寝・早起き・朝ごはん」の徹底を目指す。
----------------	--